

未来をつくる  
小学校の風景



全校朝会では、6年生の鼓笛の演奏に合わせて全員整列。子どもたちは、5年生になると6年生から楽器を教えてもらう。子どもたちの間で受け継がれていく伝統だ。



先生や友だちの説明を聞いて、考える。黒板を見つめ、また考える。そして「分かった!」「出来た!」と笑顔。たくさん考えたら今度は図工室でものづくり。「よし!上手く出来たぞ!」



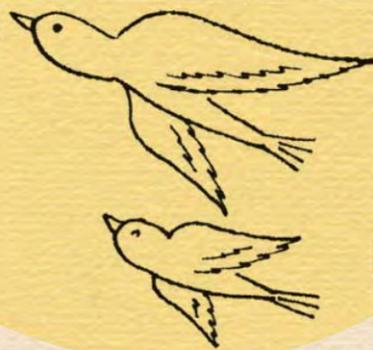
子どもたちは校庭での木登りが大好き。自分の身長よりも高くても平気!そして、暑い日も寒い日ももうす着で校庭を駆け回る。頭も体もたくさん汗をかき、たくさん給食を食べて、たくましく、大きく育っていく。



自分たちの教室を掃除するのも大切な活動。1年生のクラスまで6年生が出掛けていき、ほうきやぞうきんの使い方を手本を示しながら教えていく。帰りの会も学級全員でのあいさつで終わる。「さようなら!」の大きな声から、「明日も学校に来るのが楽しみ!」という思いが伝わってくる。

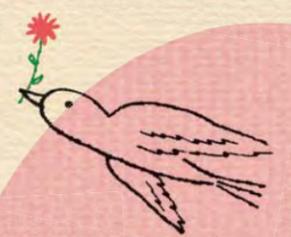
いつまでも変わらない  
風景がそこにある――

授業での学び、友だちとのかわり、給食、清掃活動……  
子どもの生活に広くかかわる多様な教育活動は、  
日本の小学校の大きな特徴であり、魅力である。  
小学校がこれまで担ってきた基本的な使命は、  
どのような時代にあっても変わらないだろう。  
そして学校中にあふれる子どもたちの目の輝きも。



社会が変化しても、変わることなく受け継いできたもの、  
そして、社会の変化の中で新しく生まれていくもの……  
日本の小学校はさまざまな輝きで豊かに彩られている。  
教育という「未来づくり」の場に出合うその輝きを、  
東京都世田谷区立給田小学校の日常に見る。

そして、  
新しい学校で  
新しい未来が  
つくられる



子どもを取り巻く社会は確実に、そして急激に変化している。その社会を担う子どもを育てるため、小学校はさまざまな挑戦を続ける。知識を活用したり、考えを伝えあったりして、思考力を育む授業づくり。保護者や地域に開かれ、さまざまな人とのかわりがある学校づくり。このような小学校での学びを礎に、子どもたちは未来へと羽ばたいていく。



「どんな風に考えた?」「友だちに説明して、意見を聞いてみよう!」。まずは、自分の考えを友だちに説明する。そして、ノートを見せ合いながら「ここはどう考えた?」。学び合いを通して考える力や伝え合う力を身に付けていく。



正門では毎朝近隣の住民たちが登校する子どもたちを笑顔で迎える。校内の飾り付けや掃除でも保護者や地域の人々が参加するなど、校内のあちこちに、さまざまな大人の姿が見られる。



幼稚園との交流では、未来の小学生に一生懸命踊りを教える。そして、朝のあいさつ運動では中学生になった先輩たちが参加し、「おはようございます!」と声を掛けてくれる。お互いを育て合う関係が広がっていく。



他の人の意見を聞いたら、それを基に自分の考えを見つめ直す。いろいろな考えに耳を傾けることで、思考が深まっていく。



撮影協力  
東京都世田谷区立給田小学校  
1961(昭和36)年開校。長年、心と体の健康づくりを重視し、子どもたちの「うす着」「はだし」は同校のシンボルとも言える。2007年度より世田谷区の地域運営学校として、「つながる給田、つよい給田」をスローガンに、保護者・地域・学校が一体となった学校づくりを進める。

校長 土橋 稔先生  
児童数 827人  
学級数 24学級  
所在地 〒157-0064 東京都世田谷区給田 4-24-1  
TEL 03-3308-5671  
URL <http://school.setagaya.ed.jp/kin/>

